

布施の心

20

【独立(3)豚小屋】

本多 克也
(略字も)

文・徳永 耕一

設立当初は銀行交渉が芳しくなかつたので、恥を忍んで名古屋の親戚に無心をお願いすることにした。

断られたら仕事は行き詰まってしまう。しかし、その親戚は私の説明を聞くと、スバッと百万円を貸してくれた。一九七〇年代前半当時の百万円は、今で言えば五百万元くらいだ。私は、九死に一生を得た。これにより設立資金が捻出できた。

それにも、この頃私は不思議と人に助けられた。あるとき、大事な時期に盲腸にかかってしまった。当時、盲腸は開復手術が必要で、二週間は入院しなければならなかつた。

困り果てていたその時、ご近所でもあり、中央大学の後輩である蓮実正道君が、「先輩、私が電話番と配達やりますよ」と申し出てくれた。

「自分の仕事はどうすんの」

「いや、仕事は兄貴と一緒にやつてるんで、一週間くらい大丈夫ですよ。土日もありますから、問題ないですよ」

蓮実君のお陰で、大事な時期に休まずに済んだ。

創業三年くらい経つ了一九七四年、UVベルトのお陰で、急に視界が開けてきた。ここでも「石の上にも三年」だった。外部の見る目も明らかに変わった。ウシオ電機に行つた時などは、白井さんといふ名の通つた工学博士が出てきて、「本多さん、たいへんなものを開発しましたね」と褒められた。

「いいえ、開発なんて。少し手を加えただけですから」と照れながらも、自分が世間から高い評価を受けられたと、いう実感がこみ上げて、内心とても嬉しかった。

UV塗料とUVランプの同時出現は、いろいろな商品の



蓮実氏

2023年3月本多産業株式会社は
設立50周年を迎えました。

本多産業株式会社

【本社】神奈川県横浜市戸塚区戸塚町3814
TEL:045-869-1133

【長崎工場】長崎県雲仙市吾妻町布江名677
TEL:0957-38-3520

印刷や製造に革命的変化をもたらしたが、私にとってそれは「天から与えられた好機」だった。同時に現金化されて必死にUV耐性ペルトを研究し、製品化に成功したのが、今日の私の事業の基礎になつたのだ。

妻と一緒に4畳半で試行錯誤を繰り返しながら第一号を完成させた時の喜びは、いまだに忘れられない。

注文が増えるにつれて、量産のために広い作業場が必要になつた。

今度は、豚小屋に目をつけた。近くに、使わなくなつた豚小屋があつて、かねてからそこに目をつけていたのだ。

豚小屋には、いくつかの間仕切りがあるが、それを取つ払うと長い作業ラインができる。こうして、ようやく工場兼事務所らしい建物ができた。

これから事業を拡大していくには、しかし、どうしても手持ち資金が必要だった。製品を販売した後現金化されるまでに、タイムラグがあるからだ。

これまでに、タイムラグがあるからだ。

これがから事業を拡大していくには、しかし、どうしても手持ち資金が必要だった。製品を販売した後現金化されるまでに、タイムラグがあるからだ。

これまでに、タイムラグがあるからだ。

これまでに、タイムラグがあるからだ。

これまでに、タイムラグがあるからだ。

これまでに、タイムラグがあるからだ。

これまでに、タイムラグがあるからだ。

これまでに、タイムラグがあるからだ。

これまでに、タイムラグがあるからだ。

これまでに、タイムラグがあるからだ。

（次回4月7日掲載予定）